

【学生フォーラム】

岡崎市の財政 ～豊田市と比較して～

愛知産業大学 経営学部 経営学科 野川 拓

本研究は、大学の所在地である岡崎市と位置・人口の似通った豊田市とを比較して、岡崎市の特色を明らかにし、今後どのようなことをすればいいかを考えることを目的としました。調査にあたっては、岡崎市と豊田市の統計書のデータから財政について調査を行いました。

序．税額の説明

まず、本研究で触れる5つの税について簡単に説明します。1つ目の固定資産税は土地や家屋、償却資産（機械装置など）のことを示しています。2つ目の個人市民税は市民にかかる税金であり、所得割や均等割から成り立っています。3つ目の法人市民税は法人（企業など）に対して課せられる所得割や均等割のことを示しています。4つ目の都市計画税は都市計画事業や土地計画整理事業のために土地または家屋の所有者にかかる税金のことを示しています。5つ目の市たばこ税はたばこにかかる税金のことを示しています。

1．平成15年度の税収入額の割合

統計から調べたデータを元に、平成15年度の税収入額について円グラフを作成し、財政の割合について調べました。岡崎市は固定資産税の割合が全体の41.5%と多く、次に多かったのが個人市民税で33.3%でした。

これに対して豊田市は岡崎市に比べて固定資産税の割合が少なく（30.1%）、法人市民税の割合が高いことが分かりました。岡崎市が8.0%であり豊田市が30.0%でした。

2．税額の推移

岡崎市と豊田市の税額の推移について平成元年度から平成15年度まで調査しました。岡崎市の財政について見てみると、固定資産税については上昇傾向にありますが、平成14年度から下落していることが分かりました。個人市民税については平成5年から6年にかけて急な下落があり、平成8年から9年にかけて急に上昇し、以降は少し下落してから横ばいになっています。法人市民税、都市計画税、市たばこ税については目立った動きはありませんでした。

一方豊田市の方は、法人市民税の変動が目立っており、固定資産税や個人市民税も時々極端な変動が見られました。

これら税額の変動は景気変動とも密接な関係があり、GDP（国内総生産）成長率が高い時には個人・法人市民税の成長率も高いことが多く、成長率が低迷している時は個人・法人市民税の成長率も低いことが分かりました。

3. 1人あたりの金額の比較

人口差をなくすために、平成15年度の岡崎市と豊田市の税額を人口で割って、金額を算出しました。その結果、ストックにかかる税金（固定資産税）の面では差が少なく（約11.4千円）、フローにかかる税金（所得・年間所得）の面では差が大きい（約24.3千円）ことが分かりました。

4. 分析結果から

(1) 考えられる問題

まず第1点として、岡崎市の固定資産税が減少傾向になっていることから、地価の下落による影響があるのではないかとこの点が明らかになりました。2点目として、個人・法人市民税の横ばいがあることから、景気の低迷による影響や企業の海外進出・店舗の衰退による産業の空洞化があるのではないかとこの点が明らかになりました。3点目として、豊田市との格差からトヨタ自動車やそれに関連した企業の影響が強いのではないかとこの結果が出ました。

(2) 求められている対策

岡崎市に求められる対策の第1点として、固定資産税を増加させることが挙げられます。しかし、少子高齢化や産業の空洞化による影響から地価の下落が予想され固定資産税の増加は困難であるといえます。

第2点として、生産性の高い企業の誘致が必要なのではないかとこの点が挙げられます。これは、法人市民税を増加させることを目的としたものですが、企業の誘致には時間がかかり、かつ優良な工業用地が限られているという指摘もあるため、法人市民税の増加は困難であると言わざるを得ません。さらに言える事として、岡崎は第3次産業（サービス業）の割合が59.8%と多く生産性があまり高くないため、以上の理由から法人市民税の増加が困難であるといえるのです。

それでは結局どうすればいいかというと、個人市民税を安定的に増加させること、そのためには「岡崎市に住んでよかった」という市民を増やしていくことがポイントになります。

5. 岡崎市に求められる対策案（例）

(1) 国道1号線の地下化

考えられる問題点として、国道1号線が岡崎市を南北に分断しており、歩道橋横断による時間的ロスや騒音・廃棄ガスによる環境問題があるのではないかとこの考えられるため、地下化を行ってみてはどうだろうかというものです。地下化を行うことによって、移動が容易になり岡崎に住む人の環境にやさしくなるという利点があります。この案は実現が困難なものですが、岡崎市を住みよい町にしようという考え方から思いついた大胆な案です。

(2) 市民文化活動の充実

(1)の方法は私達が身近に出来るものではありません。そこで私達が身近に関われるものとして、市民文化活動の充実を提案します。今回の発表でもある岡崎松坂屋サテライトオフィスの文化活動はこれからも続けていって欲しいです。その際にやり方を変え、私たちが講演し続ける講義型からみなさんが実際にやってみる参加型へとやり方を変えてみてはどうかと思います。また、岡崎の地域風土を生かしていくことも大事ではないでしょうか。例えば、矢作川や乙川の有効活用の例として、川を使ったイベント（船下り etc.）の開催をしてみてもどうでしょうか。豊田市では水源桜祭りという、川を使ったイベントが毎年開催されています。